

甲斐市立竜王小学校 自己評価書

令和4年2月1日（火）作成

校長 「 進藤 雅一 」 記述者 職名 主幹教諭 「 久保田 勲 」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・た・・・助け合う子ども・・・（情）
- ・つ・・・強い心を持った子ども・・・（意）
- ・の・・・伸び行く体の子ども・・・（体）
- ・こ・・・根気強く学ぶ子ども・・・（知）

学校経営方針

- （１） 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- （２） 児童一人一人の自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- （３） 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- （４） 特色ある学校づくりに努める。
- （５） 安全・安心な学校づくりに努める。



1 全体評価

本校の学校評価は、次の7観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色に関して
- VII 創甲斐教育について

また、教職員自己評価及び保護者用アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートについては4段階評価で行っている。教員自己評価において、「E：わからない」については担当外の場合のみつけている。また、年1回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

5段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

4段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）

（1）教職員自己評価について

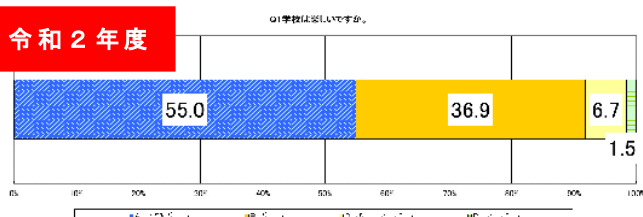
「すべては子供の幸せのために」を合言葉に、校長を中心に学校教育目標の具現化を目指し、「チーム学校（チームドラゴン 2021）」として協働し、研鑽を積んできている。学習規律「明るく元気な竜の子 15 箇条」を基盤とした授業改善や生活指導が、教職員が入れ替わっても安定して実践できるように、共通理解を図るための研修を行っている。そして組織的な指導を行うことで、子供たちの落ち着いた学校生活につなげている。

今年度の教職員自己評価も、すべての設問で「A+B の肯定的評価」が 95%以上となり、教職員が子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。

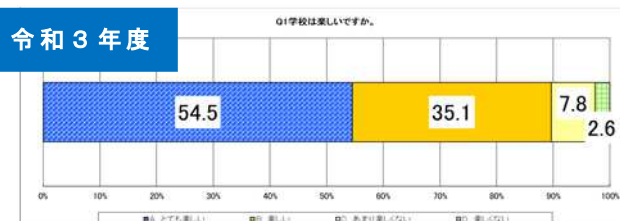
（2）小学生アンケートについて

「学校は楽しいですか。」の肯定意見が約 87%となり、多くの児童が学校生活に満足する状況である。一方、否定意見の児童が、昨年 の 8 %（33 名）から約 10%（40 名）になり増えている。今年度も、コロナ禍の中、制限のある生活スタイルに馴染むことが難しかったことが影響しているのではないだろうか。日常的に子供たちとかかわる中での見取りやQ U 調査、学級力アンケート等により、今後も児童一人一人に対して、きめ細かな指導を行っていくことが必要である。

令和 2 年度



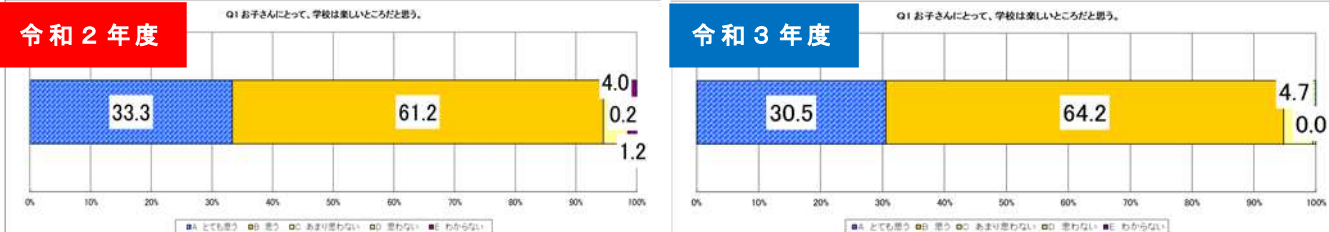
令和 3 年度



Q 学校は楽しいですか。（児童アンケート）

(3) 保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見約 95% だった。昨年度までと同様、学校に対して好意的な評価であることがわかる。



Q お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。(保護者アンケート)

2 観点ごとの評価結果 (達成状況・改善策)

I 学校教育目標・学校経営について

(1) 達成状況について

番号	Ⅰ 学校教育目標・学校経営について	令和2年度				令和3年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。	68.8	31.3	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0
2	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	87.5	12.5	0.0	0.0	78.8	21.2	0.0	0.0
3	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	78.1	21.9	0.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0
4	あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。	56.3	43.8	0.0	0.0	60.6	39.4	0.0	0.0
5	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	60	36.7	3.3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0

凡例

←前年度よりAの回答率が上がっている項目 又は 新規項目

学校教育目標や学校経営について、全員の教職員が肯定的な意見であり、高い数値が見られた。学校教育目標をもとに学校教育活動がなされ、一定の成果を得ているという実感があるものと考えられる。

一方、昨年度と同様に、一人一人の教職員の PDCA サイクルによる教育活動の推進、特別支援教育の体制整備と機能化において、A の回答率が比較的低くなっている。

(2) 改善策について

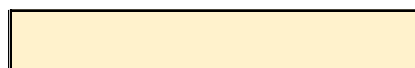
- ① 新学習指導要領で求められるカリキュラム・マネジメントについての全教職員への理解を、研修などを通してより深め、PDCA サイクルを活用しながら効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を図っていく。
- ② 引き続き、多様な子供たちを誰一人取り残さないように、特別支援コーディネーターを中心に、校内支援委員会やケース会議の効果的な運用に努めていく。一人一人の子供たちのニーズに応じた合理的な配慮とその指導法について、学校体制で取り組めるように、教職員間での情報共有を確実にやっていく。

II 学校運営について

(1) 達成状況について

番号	II 学校運営について	令和2年度				令和3年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。	40.6	59.4	0.0	0.0	39.4	60.6	0.0	0.0
2	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	78.1	21.9	0.0	0.0	78.8	21.2	0.0	0.0
3	あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。	81.3	18.8	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0
4	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	81.3	18.8	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0
5	あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	48.3	51.7	0.0	0.0	46.9	53.1	0.0	0.0
6	あなたは、校務支援システムを十分活用できている。	37.9	62.1	0.0	0.0	51.5	45.5	3.0	0.0
7	あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。					42.4	57.6	0.0	0.0

凡例



←前年度よりAの回答率が上がっている項目 又は 新規項目

すべての項目において肯定的な回答であり、多くの教職員が主体的に学校運営に関わっているといえる。特に設問3、4については非常に良い数値を示しており、毎日の教育活動が、まさに「チームドラゴン2021」として、管理職や他の教職員とコミュニケーションをとりながら協働して行われていることがうかがえる。また、新規設問である働き方改革については、学校徴収金について、口座振込を実現させ、大幅に集金業務の効率化を図ることができた。

一方、設問１の危機管理と設問５の校内研究に関する事項において、昨年度と同様に、Ａの回答率が比較的低くなっている。

（２）改善策について

- ① 「危機管理マニュアル」のさらなる見直しと充実を図るとともに、日々の教育活動において「危機管理マニュアル」の活用と改訂を行っていく。教職員に対する「危機管理マニュアル」の周知や訓練の実施を的確に行う。
- ② 教職員による校内研究では、ICTを活用して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、研究授業を行ってきた。今後は、校内研究での成果を教職員一人一人に再度フィードバックし、日々の教育活動につなげ、指導力向上につなげていく。

Ⅲ 学習指導について

（１）達成状況について

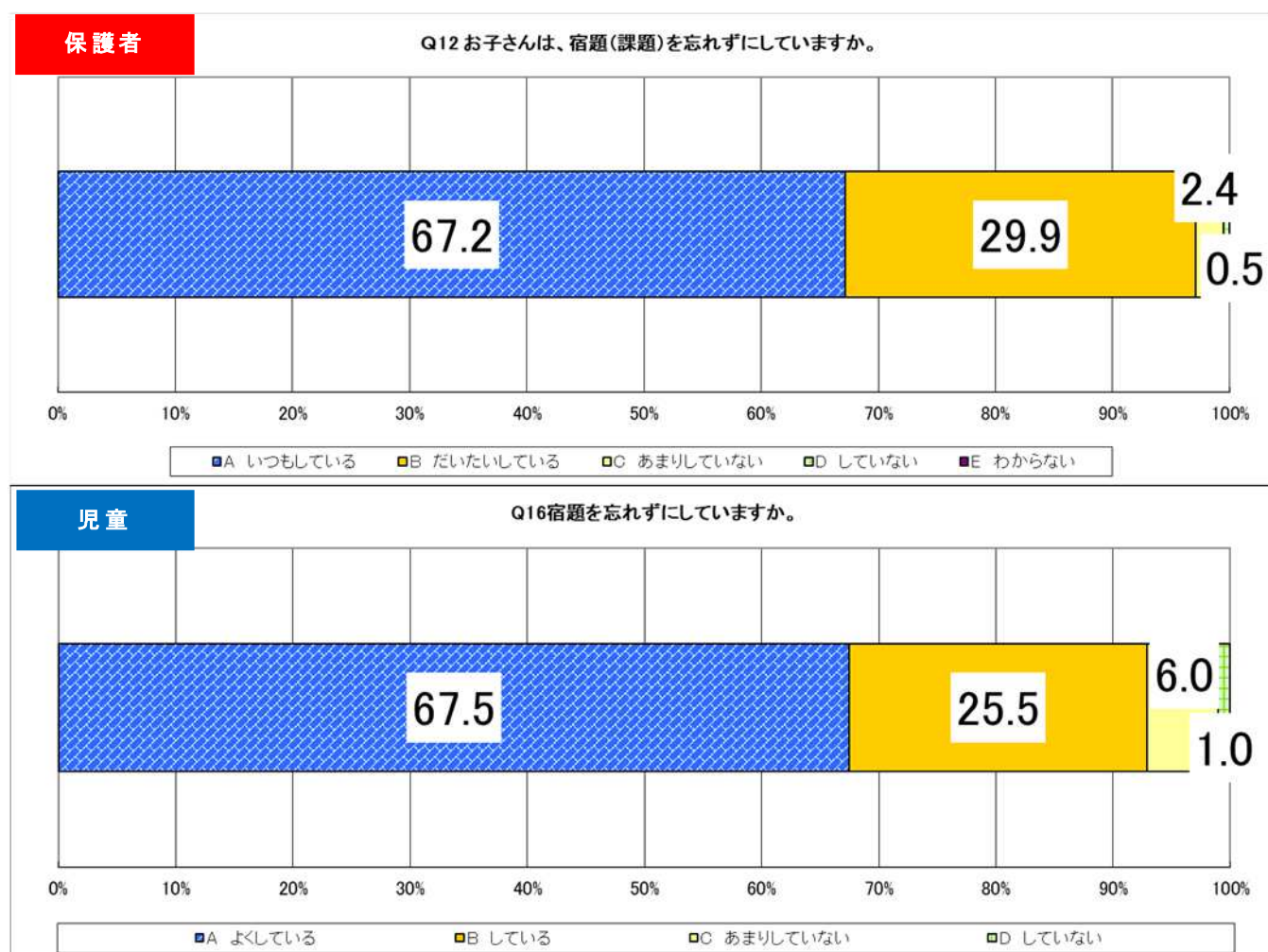
番号	Ⅲ 学習指導について 質問内容	令和２年度				令和３年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	46.2	53.8	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0
2	あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。	53.8	46.2	0.0	0.0	67.9	32.1	0.0	0.0
3	あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。	34.6	65.4	0.0	0.0	46.4	50.0	3.6	0.0
4	あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。					55.6	40.7	3.7	0.0
5	あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。					50.0	50.0	0.0	0.0
6	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	53.8	46.2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
7	あなたは、思考力・判断力・表現力を伸ばすような問題解決型授業に取り組んでいる。	50.0	50.0	0.0	0.0	48.1	51.9	0.0	0.0
凡例	←前年度よりAの回答率が上がっている項目 又は 新規項目								

多くの項目において昨年度と比べてＡ評価の値が高くなっている。本校では、ここ数年、経験豊かなベテラン教員とやる気に満ち溢れる若手教員が学年内で協働し、授業力向上に努めているが、その結果が現れていると考えられる。

特に、学びの意欲を喚起する授業や、個に配慮した基礎・基本の定着を図る授業の実施については、Aの回答率がとても高くなっている。本校が取り組む「学習規律」や「ほめ言葉のシャワー」をはじめとする学びに向かう姿勢づくりが定着し、日々、教職員一人一人が意識しながら取り組んできている結果であると考える。

一方、設問3の指導と評価の一体化については、Aの回答率が比較的低くなっている。観点別評価における評価規準の設定について、今年度も試行錯誤を繰り返していると考えられる。

甲斐市では、家庭学習の目安として「学年×10分+10分」としている。小学生アンケート、保護者アンケートを見ると、「宿題を忘れずにしている」という設問において、約93%の子供たち、約97%の保護者が肯定的な回答をしている。これは昨年度とほぼ同様の結果であり、家庭での学習がほぼ定着している様子がうかがえる。しかしながら約7%の子供たちがC・Dと回答しており、家庭学習への取組のさらなる指導が必要である。



(2) 改善策

- ① 学年主任を中心に各教科の学習評価を再確認し、新学習指導要領が示す「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を意識した評価を明確にして授業を行うようにしていく。学習の「めあて」がその授業の評価規

準もあらわしている。引き続き、「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」の明確化を意識して、授業づくりを行っていく。

- ② 各家庭に配付している「家庭学習の手引き」を活用し、より家庭との連携を深めていく。また、個別懇談、学年だより等を通して、自主学習の取組方法など、各家庭への啓発に努めていく。

Ⅳ 生徒指導について

(1) 達成状況

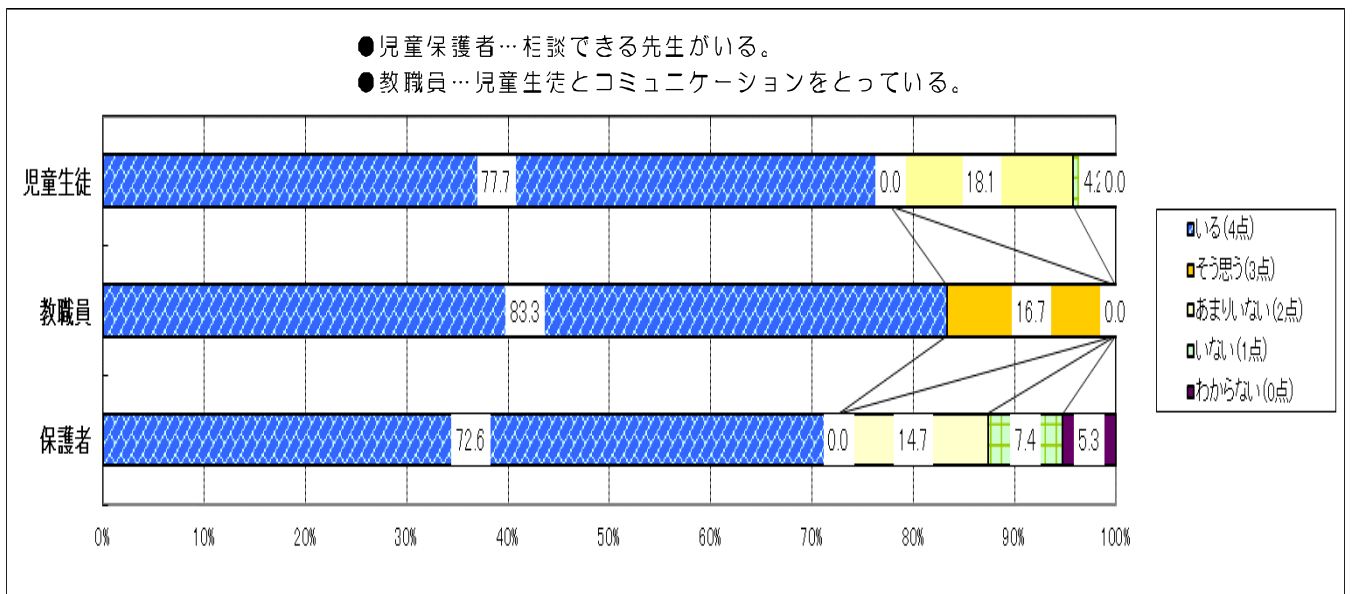
番号	Ⅳ 生徒指導について	令和2年度				令和3年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とても思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	66.7	29.2	4.2	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	90.3	6.5	3.2	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
3	あなたは、児童生徒の規範意識をはぐむ指導に取り組んでいる。	74.2	25.8	0.0	0.0	70.0	30.0	0.0	0.0
4	あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	56.7	43.3	0.0	0.0	37.0	59.3	3.7	0.0
5	あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。	63.3	36.7	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0
6	あなたは、「明るく元気な竜の子15か条」を意識して、生徒指導に取り組んでいる。	67.7	32.3	0.0	0.0	67.7	32.3	0.0	0.0

凡例

←前年度よりAの回答率が上がっている項目 又は 新規項目

生徒指導についての達成状況についても、全体的にAの回答率が高くなっている。本校の教職員が、子供たちに寄り添い、きめ細かな児童理解の上で教育活動を行おうとし

ていることがうかがえる。その成果は子供たちや保護者の意識にも表れており、学校に相談できる先生がいるという設問に対しても、非常によい結果が表れている。



また、今年度も「明るく元気な竜の子 15 箇条」についての設問においても、比較的、高い意識をもって取り組んでいる様子がうかがえる。どちらも学習指導上の基盤となるものであり、規律ある生活習慣や学習習慣の構築が、確かな学力の育成には欠かせないものである。そのような意識は子供たちや保護者にも伝わっており、それぞれにより数値が表れている。これは本校のよき伝統であり、今後も継続していきたい。

一方、「キャリア教育」についての設問 4 や、「問題行動」についての設問 5 に対する A の回答率が、昨年度よりも低くなっている。

(2) 改善策

- ① キャリア教育等については、各教科、領域において、基礎的・汎用的能力の育成を位置づける必要がある。これまで取り組んできている指導内容が、十分にキャリア発達を促すことができていると実感できていないことに起因していると考える。

「キャリア教育」は、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育全体を通して行うものである。外部人材を積極的に活用したり、校外学習やオンライン学習の取組を行ったりして、社会参画意識を高める教育活動を行っていきたい。また、キャリアパスポートを効果的に学級活動の時間の中に取り入れ、夢や志をもって、子供たちがキャリアプランニングできる力の涵養も図っていく。

- ② 子供たちの問題行動については、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。できるだけ素早い対応ができるよう、日頃からの学級経営の充実を図ったり、児童・保護者とのコミュニケーションを深めたりしていく。児童とふれあう時間を確保するために、諸会議や行事の精選を行い、校務効率化を図っていくことも必要である。また、問題行動に対する組織的な対応ができるよう、SC や

SSW、市の子育て支援課、県の児童相談所と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていく。

V 地域との連携について

(1) 達成状況

番号	V 地域との連携について	令和2年度				令和3年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	44.0	56.0	0.0	0.0	26.7	70.0	3.3	0.0
2	あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	40.7	55.6	3.7	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	90.0	9.4	0.0	0.0	84.8	15.2	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に積極的に参加している。	57.1	42.9	0.0	0.0	42.4	57.6	0.0	0.0
5	あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。	74.2	25.8	0.0	0.0	78.8	21.2	0.0	0.0
6	あなたの学校は、地域協力者へ情報提供を行い、学校・地域の教育力向上に努めている。	71.0	29.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目 又は 新規項目							

今年度も、コロナ禍の中、外部との連携した多くの事業を実施することができなかった。そのような状況下においても、保護者や地域住民による、毎日の子供たちの登下校の見守り等、様々な場面で協力を得ることができた。

学校の教育活動の発信については、Aの回答率が約84%であり、昨年度に引き続き高回答率であった。学校開放が制限される中、学校だよりやホームページを通して地域や保護者に迅速、確実な情報発信を行い、説明責任を果たすことができたと考える。

PTA、地域連携に関するAの回答率が昨年度よりも低い結果となった。「運動会」においては、本年度もPTA本会役員を中心として、積極的な協力を得ることができた。また、PTA活動に対する負担感を軽減するために、PTA活動の精選を図り、次年度以降の役員定数の削減を実現することができた。また、「竜小協力者会議」等の地域連携事業について

は、紙上報告等を確実に行之、教育活動への理解を求め、意見収集に努めた。

(2) 改善策

- ① 学校からの情報発信については、今後も継続して、学校だよりやホームページを積極的に活用していきたい。また、本校は、保護者への連絡手段として安心メールの加入率が100%で、学級連絡網を廃止することができている。個人情報保護の観点からも意味のあることである。安心メールとホームページを連携させることで、より効果的に情報を発信し、開かれた学校としての説明責任を果たしていく。
- ② PTA活動は、多くの会員が積極的に参加し、児童にとってよりよい学校にしていけることが大切である。また、次年度は、創立150周年である。PTAや地域との連携は欠かせない。今年度、十分に行うことができなかったPTA主催行事や地域と連携した取組について、これまでの実績を確実に引継ぎ、活性化を図っていく。

VI 学校の特色に関して

(1) 達成状況

番号	VI 学校の特色に関して 質問内容	令和2年度				令和3年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
		回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	74.2	25.8	0.0	0.0	60.6	39.4	0.0	0.0
2	「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	90.3	9.7	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
3	状況に応じて、日課表の見直しや時間割の工夫を行い、授業時数の確保に努めている。	77.4	22.6	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0
4	教育機器（クロームブックなどのICT機器を含む）を、積極的に取り入れた活動を行っている。	77.4	22.6	0.0	0.0	63.6	36.4	0.0	0.0
凡例	←前年度よりAの回答率が上がっている項目 又は 新規項目								

どの設問においても、Aの回答率が高くなっている。子供たちが主体的に取り組む児童会活動や、ICT機器の積極的に活用した授業実践は、本校の特色として自負してよいことである。ただし、昨年度と比して一つ一つの回答率をみると、全ての設問において、Aの値が低い傾向にある。

(2) 改善策

- 今後も、校長が示す経営方針を教職員が共通理解し、学校の長所を伸ばし、短所を改善しながら学校の特色化を図っていくことが大切である。教職員が入れ替わり、担任学年が変わっても、組織的な対応により、本校の特色を生かす指導ができるようにしていかなければならない。

VII 創甲斐教育について

(1) 達成状況

番号	VII 創甲斐教育について	令和2年度				令和3年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	聞き方、話し方のスキルにしがって、言語能力の向上に努めている。					63.6	36.4	0.0	0.0
2	学級活動において「ほめ言葉のシャワー」等を行い、相手のよさを自分の言葉で表現する取組を行っている。					69.7	30.3	0.0	0.0
3	学校だよりや保健だよりを定期的に発行し、子供たちの体づくりや運動習慣づくりに家庭と連携して取り組んでいる。					66.7	33.3	0.0	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目 又は 新規項目							

新しい設問である。どの設問もAの回答率が高くなっている。引き続き、言語能力の向上、よさをみとる教育活動の推進、体力づくりの取組の充実を教職員一丸となって取り組んでいく。

(2) 改善策

- どの学級、学年においても、指導が一貫して行われるように、「聞き方、話し方スキル」の確認や、「ほめ言葉のシャワー」の取組方法等について、年度当初の早い段階に教職員研修を行っていく。

3 まとめ（成果と課題）

I 学校教育目標・学校経営について

成果	課題
◎学校教育目標を基にした学校経営と、それを受けた学校運営，教育活動の実施	●カリキュラムマネジメントによる確実なPDCAの実施 ●学校体制で取り組む特別支援教育

II 学校運営について

成果	課題
◎教職員一人一人の主体的な参画 ◎業務効率化による働き方改革	●危機管理マニュアルの的確な運用 ●校内研究の確実なフィードバック

III 学習指導について

成果	課題
◎基礎・基本の定着を図る授業の実施 ◎学習規律の徹底やよさのみとりによる学びに向かう姿勢づくり	●観点別評価規準の設定とその評価方法の研修 ●家庭学習と連携した学びの啓発

IV 生徒指導

成果	課題
◎「明るく元気な竜の子15箇条」を基にした子供に寄り添う生徒指導 ◎きめ細かな指導に対する保護者，児童からの信頼	●社会参画意識を高めるキャリア教育の実施とキャリアパスポートの効果的な活用 ●問題行動の早期発見・早期対応のための校務効率化と組織連携

V 地域との連携

成果	課題
◎学校だよりや学校ホームページによる迅速，確実な情報発信 ◎本会役員を中心としたPTAからの積極的な協力 ◎PTA活動の負担感軽減策の提案	●安心メールと学校ホームページのより効果的な活用 ●PTA主催行事の取組の継続 ●協力者会議を中心とした地域との連携の引継ぎ

VI 学校の特徴

成果	課題
◎校長の経営方針の共通理解 ◎子供たち主体の児童会活動 ◎ICTの積極的な活用	●長所を伸ばし，短所を改善することによる特色化

VII 創甲斐教育について

成果	課題
◎聞き方，話し方スキルによる言語能力の向上 ◎よさのみとりをすすめる「ほめ言葉のシャワー」 ◎家庭と連携した体力づくりの推進	●教職員研修による一貫した指導体制の確立

来年度以降も「チームドラゴン」として、特色ある、地域の学校としての役割を果たしていけるよう、全教職員一丸となって取り組んでいく。